

# ボクホンさんと魚を創ろう

開催日／平成29年4月20日(木)  
場所／宇和島市立遊子小学校



名嘉睦絵展の関連イベントで、木版画家・名嘉睦さんと宇和島市立遊子小学校の4～6年生24名と共同制作を行いました。

今回の内容は、名嘉さんが仕上げてきた魚(ナポレオンフィッシュ)の木版画に子どもたちが制作した木版画の鱗を飾り、名嘉さんと子どもたちで大きな魚の作品をつくるというものでした。

授業が始まり、名嘉さんと子どもたちが対面した教室には緊張感が漂いますが、名嘉さんの笑顔と幼少期に過ごした島の話を受けての自己紹介で空気は和らぎます。

名嘉さんが作業工程を説明し、鱗を実演。いつものように版木に簡単なあたりをつけ版木を彫り、凸版を黒インクで刷り、裏から水彩絵の具で彩色しました。名嘉さんはドクロをまいた蛇を描き、鱗の模様は自由でいいことを伝えてくれました。

子どもたちの制作に移り、名嘉さん流に下絵なしで彫ってみる子、複数枚刷ったものを1枚1枚、彩色を変えてみる子、それぞれがいろいろなことを試しながら真剣に取り組みました。

桜の花、貝、野球道具など、思い思いのみんなの鱗の絵が出来上がると、名嘉さんの大きな魚に貼り付けます。続いて名嘉さんが全体の紙を机の上に裏返し、みんなが固唾をのんで見守る中、色を加えていきました。名嘉さんが筆を置き、紙を表に向けて、それぞれに制作した作品が一体となり、魚に命が吹き込まれたようでした。

最後に、名嘉さんと24名がサインをし、落款代わりに押印を押し、完成。出来上がった作品を前に名嘉さん子どもたちも満足した笑顔が自然とこぼれていました。

作品は、展覧会会期中、美術館で展示した後、現在は“学校の宝物”として遊子小学校で展示されています。(石崎)



## 夏休みイベント —アトリエリニューアル記念—

耐震化工事のため休館しておりました南館ですが、この夏、リニューアルオープンする運びとなりました。そこで、オープン記念を兼ねて、恒例の「夏休みイベント」を拡大実施します。

「プレス機を使ってタグ作り」では、好きな形に切り抜いた厚紙を版にして、革に凹凸を刻印し、タグを作ります。「おひさま写真」では、美術館周辺にあるあなたの気に入ったモノを日光写真で印画紙に記録します。そして、「大きな壁にスタンプ」は、アトリエ西側に出来た壁に大きな紙を貼り付け、いろいろな大きさの円型でスタンプしていきます。

夏休みの思い出づくりに、そして、南館リニューアル記念に、ぜひお越しください。(楡垣)

- 大きな壁にスタンプ 7月25日(火)・8月 5日(土)11:00～15:00
- プレス機を使ってタグ作り 8月 5日(土)11:00～12:00
- おひさま写真 8月 5日(土)13:30～14:30



28年度の様子

### 一日講座

## 堀之内探検 日光写真で激写

この一年、耐震工事の関係でアトリエが使えず制作が限られる中、様々な講座を開催してきました。今回もアトリエから飛び出し、堀之内で遊んでみよう企画しましたが、布に写真が簡単に写せる！という衝撃。それが一見監染めのような仕上がりに感動し、探検だけではなく写真体験も付加した講座へと発展させることにしました。

紫外線が強い5月の日曜。晴天に恵まれた日に、幼児や小学生とその保護者と共に、講座を実施しました。まずは、講座の趣旨(堀之内を散策し採取した草花で、形を写し撮るフォトグラムという写真技法で、布に撮影すること)を説明しました。

木漏れ日の中、そよぐ風を感じながら、ハート型や虫食い、葉、枝、花など形に注目して採取しました。

日陰で、感光乳剤(光で発色する溶剤)を塗布したハンカチサイズの生地に、手早くセロハンテープで草花を留めていきます。その間にも黄緑色だった溶剤が徐々に青くなり気が急ぎます。全て貼り付け終わったら、前庭の築山の上に置くこと約10分。黄緑色から青に変色していた布が、灰色がかってきたら水洗いです。

透明の水に黄色い色が流れ出てきて、布が真っ青に変化。葉を置いていたところは、水で洗うと真っ白になりました。細い草花の形もしっかりと焼き付けることに成功！お互いに見せ合い、乾かしがてら握りしめて帰っていく姿が印象的でした。



アトリエ再オープンを記念したイベントで同じく日光写真を試せます。是非、ご参加ください。

# Canforo

No.54

### Canforo カンフォロとは？

イタリア語で「くすのき」を意味します。愛媛県美術館の中庭に立つ3本の大きなくすのきにちなんでなづけられました。

愛媛県美術館ニュースNo.54 2017 発行日＝平成29年7月10日 編集・発行＝愛媛県美術館

執筆者  
武田豊明、梶岡秀一、長井健、杉山はるか、喜安譲一、八木誠一、田代亜矢子、石崎三佳子、楡垣正

### 企画展

# 美人画は語る

培広庵コレクション

—松園、清方、深水、そして河崎蘭香



上村松園(桜狩の図)昭和10年 培広庵コレクション



河崎蘭香(美人観夜図)大正5年 個人蔵



北野恒富(顔いの糸)(部分)大正3年頃 培広庵コレクション

2017年  
7月26日[水]～  
9月4日[月]

展覧会名にある「美人画」という言葉からどのような画を思い浮かべますか。

「美人画」は日本独自の絵画ジャンルとして明治から大正にかけて確立されていきました。大正4年(1915)の第9回文部省美術展覧会(文展)に「美人画室」という展示室が設けられたこの年が、「美人画」のひとつの節目として取り上げられますが、現在美人画の巨匠と言われる上村松園や簗木清方の女性を描いた作品はこの美人画室に展示されていませんでした。同じ女性を描いた作品でも「美人画」とそうでないものがあり、当時「美人画」は卑俗なものとして考えられ、美人画室の登場をきっかけに様々な議論が交わされました。こうした紆余曲折を経ながらも「美人画」は魅力的な人間表現として、時代を超えて定着し、現在も多くの「美人画」展が開催され、人々の眼を惹きつけているのです。

本展の「美人画」コレクションは、コレクターである培広庵氏により蒐集されたもので、その多彩な画家の顔ぶれが何よりも魅力となっています。美人画の巨匠と謳われる松園、清方、深水をは

じめ、大阪を中心に活躍し、今年没後70年の個展が各地で開催されている北野恒富やその弟子の島成園、大正デカダンスを代表する岡本神草ら—その豊かなコレクションからは、画家が追求した「美しい人」の多様性が感じられます。私たちが美しいと思うものが一様でないように、作品を生み出す画家たちも、それぞれが信じる美しさを追求し、その信念を女性たちに仮託したと言えるでしょう。描かれた女性たちは、画家の「美しさ」に関わる代弁者とも言えます。

また、本展の最終章では、愛媛県八幡浜出身の女性画家、河崎蘭香(1882-1918)の作品を県内コレクターのご協力により、紹介いたします。寺崎廣業に師事し、自らも弟子を抱えながら、35歳と言う若さで亡くなった蘭香は、同性ならではの親密な視線により、柔和な独自の「美人画」表現にたどり着いています。

夏のひととき、涼しい美術館で様々な「美人」とゆっくり語ってみませんか。(喜安)

## TOPICS 愛媛／松山 ミュージアム・ストリート連絡協議会について

平成28年10月に、松山市内の8つのミュージアム(29年度9ミュージアム)が広報や各種事業等において相互に連携し、県内外のお客様に対して質の高い芸術や文化鑑賞等の「おもてなし」を提供するため、「愛媛／松山ミュージアム・ストリート連絡協議会」を設立しました。

参加施設は、愛媛県美術館、坂の上の雲ミュージアム、セキ美術館、湯築城資料館、萬翠荘、ミウラート・ヴィレッジ、松山市立子規記念博物館、松山城二之丸史跡庭園、秋山兄弟生誕地です。

平成28年度は、まちづくり組織「お城下松山」のクーポン冊子に各団体の紹介や入場料などの割引サービス

掲載しました。平成29年度は、年間の展示やイベントが一目でわかるスケジュールや街歩きに便利な地図、お得なクーポンなどを掲載した9施設共同のパンフレットを作成しました。各施設や観光案内所等を通して多くのお客様にご覧いただき、各館を回遊していただきたいと思います。

今後は、「山陰・四国三角ルート キーワードラリー」への参加、参加施設間の職員研修や展示での協力など、いっそうお客様に親しまれるミュージアムとなるよう努めてまいります。(八木)



## Museum Street



〒790-0007 愛媛県松山市堀之内  
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511  
<http://www.ehime-art.jp/>



### ご利用案内

- 開館時間 9:40～18:00(入室は17:30まで)  
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。各展覧会のページでお確かめください。
- 休館日 月曜日  
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29～1/3が休館日)



このところ、事務室の掃除など館内の細々とした仕事をする機会が増えました。体験して初めてそうした仕事の大切さに気づきました。休日の美術館前庭の草引きの後の、the park M's coffeeで一杯は至福のひと時です♪(杉山)





愛媛県イメージアップキャラクターのびん

# Leonardo da Vinci

企画展 **レオナルド・ダ・ヴィンチと「アンギアーリの戦い」展**  
 ～日本初公開「タヴォラ・ドーリア」の謎～  
 2017年11月2日(木)～12月24日(日) 主催:「アンギアーリの戦い」展愛媛展実行委員会  
 (愛媛県、愛媛新聞社、南海放送)



マルカントニオ・ライオンティ(甲をよむ男たち)  
 (ミケランジェロ・ブオナローティ「カッシナの戦い」の一部に基づく)1510年 大英博物館版画部  
 © The Trustees of the British Museum

作者不詳(レオナルド・ダ・ヴィンチに基づく)「タヴォラ・ドーリア」(アンギアーリの戦い)の軍旗争奪場面  
 16世紀前半、ウフィツィ美術館蔵(2012年、東京富士美術館より複製)  
 Ex-S.5.6.1.2.5 per il Museo della città di Firenze-Gabinetto Fotografico

イタリア・ルネサンスの巨匠、レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519)。本展では、その未完に終わった幻の巨大な壁画《アンギアーリの戦い》の謎を解く手がかりとなる、貴重な板絵《タヴォラ・ドーリア》を軸にご紹介します。

1503年、レオナルドはフィレンツェ共和国からヴェッキオ宮殿の大広間のための壁画《アンギアーリの戦い》の注文を受けました。また、同じ大広間に《カッシナの戦い》の依頼を受けたのは、同時代のもう一人の巨匠、ミケランジェロ・ブオナローティ(1475-1564)。これらの戦いはフィレンツェ共和国の華々しい歴史を語る上で重要な出来事でした。

この二人の類まれなる芸術家による競演は大きな注目を浴びたものの実現せず、それぞれ原寸大下絵とレオナルドが実際に壁面に描き始めた軍旗争奪の場面が残されました。それらは多くの人々の目に触れ、同時代の芸術家ベンヴェヌート・チェッリーニが「世界の学校」と評したほどに、同時代や後世の画家たちにまで大きな影響を及ぼしたのです。

その後早い段階で原寸大下絵は失われ、また壁面に描かれた軍旗争奪の場面も16世紀半ばの大規模な改修により、ジョルジョ・ヴァザーリによる壁画で覆われてしまいました。その全貌は未だに解き明かされていません。

今回ご紹介する《タヴォラ・ドーリア》(ドーリア家の板絵の意)は、この軍旗争奪の場面が描かれた作品であり、ドーリア家において遅くとも1621年から1940年まで継承されてきました。その後複数の所有者の手を経て1992年に東京富士美術館が所蔵し、2012年にイタリア政府に寄贈。一気に世界中の注目を浴び、最先端の調査を経て同時代である16世紀前半、フィレンツェの画家が用いた技法によって制作された作品であることが確認されたのです。

《タヴォラ・ドーリア》は、レオナルドの幻の大作を巡る研究の新しい鍵として今、歴史を語り始めています。(杉山)

the park M's coffee **OPEN!**



TOPICS

レストランがリニューアルオープンしました!

4月末に美術館レストランが“株式会社かどや”さんの運営で“the park M's coffee”として新装オープン。県内産の旬の素材を使用したプレートランチやパスタ、ドリンクなどが味わえます。自慢のコーヒー、城山ブレンドはオリジナルの調合で、淹れ方にもこだわり、フレンチプレスで抽出しています。コーヒーのお供には、カップシフォンケーキもおすすです。美術館で過したあと公園の緑を眺めながら、ちょっと一休みにお立ち寄りください。

\* 営業時間: 8:00~19:00  
 \* 営業日: 美術館の開館日

所蔵品展

## 子規門下の人々

阿部里雪コレクションを中心に

正岡子規生誕150年・柳原極堂生誕150年記念  
 世に「俳句王国」と呼ばれる松山の文化を象徴する松山人といえば、正岡子規と門下の高濱虚子、河東碧梧桐、柳原極堂ということになるかと思いますが、以上4人のうち子規と極堂は慶應3年(1867)の生まれ。今年は子規、極堂、そして夏目漱石の生誕150年で、記念行事が全国各地で開催されています。そこで当館でも「子規門下の人々」と題し、阿部里雪コレクションを中心とした展示を御覧いただけます。

里雪は今治の伯方島に生まれた俳人ですが、極堂や五百木飄亭の下で新聞記者として活躍しました。「親以上の親」と慕った極堂はもちろん、虚子や碧梧桐をはじめ多くの俳人たちと親しく接してその人柄は誰からも愛され、多数の短冊や色紙を贈られました。御遺族が大切に保管してきた膨大なコレクションの中には、子規の短冊や、虚子の書簡があり、内藤鳴雪の題字を掲げる帖には勝田主計や水野広徳、白川義則等の書も含まれます。下村為山や柳瀬正夢、長谷川竹友、石崎重利、坂田虎一等の絵画も遺されています。

今回は里雪コレクションの一部とともに、当館所蔵の子規の書「喫茶去」等も展示します。「喫茶去」は子規が友人の森円月に贈った書ですが、当館の近所にある「坂の上の雲ミュージアム」では漱石や村上露月、森円月に関する展示が催されます。当館の所蔵品も出ますので、併せて御覧いただければ幸いです。(梶岡)

2017年  
 7月19日(水)-  
 10月9日(月)



下村為山「子規庵句会写生図」個人蔵(当館寄託)

## 平成28年度新収蔵品より 小林勇旧蔵 柳瀬正夢コレクション

昨年度、当館には購入や寄贈により、計326点の作品が新たに収蔵されました。新居浜市出身のイラストレーター・真鍋 博の原画約300点をはじめ、中川八郎、古茂田公雄、三輪田俊助といった本県出身の作家の作品が揃った今回の新収蔵品ですが、中でも特に重要な一群を占めているのが、大正期新興美術運動の中心的存在であった松山市出身の洋画家・柳瀬正夢作品8点です。

これらは全て、柳瀬の親友であった小林勇(1903-81/鉄塔書院、岩波書店代表。文筆家、画家としても活動。)が旧蔵していたものです。昭和7年(1932)の治安維持法逮捕、さらに拘留中の妻の死を経て、保釈後も失意の底にあった柳瀬に再び油彩制作を勧め、作家としての再起を励まし続けたのが小林でした。

図版掲載した《Kの像》は小林がモデルであり、裏面には10年のブランクを経て再び鉛筆をとったことを意味する「No.1」の文字が記されており、ここからいわゆる柳瀬の「第2次油画時代」がスタートすることになる象徴的作品です。また柳瀬から小林に譲られた愛猫を描いた《黒の毛繕い》や、獄中で描かれた《難人形》など、その他の作品も、大作ではありませんが、制作作品数の限られる昭和初期の柳瀬の画業の重要な一群と位置づけられ、柳瀬が最も信頼を置いていた人物との関係性を示す点で資料性も高い作品です。(長井)



柳瀬正夢《Kの像》昭和9年(1934)



つぶやき  
 5月末、県警音楽隊の皆さんの制服が夏仕様となった春のプロムナードコンサートの4回目が終了しました。この春は4回とも天気に恵まれ、毎回500人以上の観衆が大いに賑わいました。4月末に新しくオープンした美術館レストランの屋外にあるテーブルで「城山ブレンドコーヒー」を飲みながら、音楽と城山公園を楽しむという新たな魅力が加わっております。(武田豊)

所蔵品展

愛顔つなぐ  
 えひめ国体・  
 えひめ大会  
 開催記念

## 侍の美

2017年  
 9月9日(土)-  
 11月6日(月)



伊藤深水「平歌盛像」当館蔵

今年には愛媛において待望の第72回国民体育大会と第17回全国障がい者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会」が挙行されます。

スポーツと美、スポーツと美術には、古代ギリシアの昔から深い関係がありました。今日では哲学・体育学の一分野として「スポーツ美学」も行われています。実際、スポーツにおいて遊戯性と組織性(規則性)、競争性、身体性が調和する姿は、「多様における統一」という古来の美の思想に通じます。

日本の歴史文化においてそれに近いのは侍の世界、武芸の道でしょう。「平家物語」を読めば、「遠からん者は音にも聞け! 近からん人は目にも見給へ!」と名乗りを上げて正々堂々一騎打ちを始める武者の姿を知ることができます。那須与一が扇の的を射る場面は、もはやスポーツそのものです。戦地でも風雅の心を失わず、桜花を和歌に詠う源義家や、管絃を奏する平敦盛は、武士が美の探究者でもあったことの好例です。

国体開催を記念して開催する特集展示「侍の美」では、武士の姿を美しく描いた絵画、彫刻とともに、侍の美の化身ともいえる刀剣を展示します。伊佐爾波神社と東雲神社の見事な刀剣を特別に公開しますが、いずれも重要文化財指定の名宝です。是非この機会に御鑑賞ください。(梶岡)

愛媛県美術館  
 コレクション



ハトの志  
 編集後記  
 今年10月に愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会が開催されます。来県者も増えると見込まれ、このチャンスに愛媛県美術館をPR! ということで、美術館で開催する展覧会も文化プログラム事業に参加し、ホームページも改修の準備を進めています。国体と併せて、美術館にも多くの方に立ち寄りいただきたいと思います。(石崎)